

1995.1.17

阪神・淡路大震災

メモリアル・フォト

1月17日の恐怖

震災文庫

1

287

震災文庫 1 - 287

9006217

神戸大学人社系図



00099021402

1995.1.17

阪神・淡路大震災

メモリアル・フォト

M7.2の恐怖



発刊にあたって



平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とする兵庫県南部地震が発生し、一瞬にして「まち」を破壊し、多くの尊い生命を奪いました。

ここに改めて、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の方々や被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。

また、関係機関からの力強い応援をいただいたことや、全国各地から寄せられた多くの救援物資・義援金等の心温まる善意、ボランティアの皆さんが差し伸べられた援助の手が、私たち被災住民の大きな支えとなりましたことを心から厚くお礼申し上げます。

この地震災害は、後に「阪神・淡路大震災」と命名され、永く後世に語り継がれる歴史的な大災害となったことは、誠に無念の思いを禁じ得ません。しかしながら、失ったものがあまりにも大きかったにせよ、得たものも、決して少なくなかったと思っています。自ら被災したにもかかわらず多くの住民の皆さんは、お互いに助け合い、いたわり合う心をもって行動し、また、あらゆる方面のボランティア活動に、生き生きとした表情で参加していただきました。豊かさの陰で、すっかり忘れてしまっていた人の心の優しさ、これがある限り、ふるさと「淡路」の復活は間違いないものと確信いたします。

悪夢の日から1年以上の歳月が流れた今でも、町のあちらこちらにその傷跡が残ってはおりますが、この苦しみを乗り越え、一日も早く復興を成し遂げ、より安全なまちづくりに努めていくことが急務と考え、現在「淡路町震災復興計画」の策定を進めているところであります。

思い出したくない出来事ではあるけれど決して忘れてはならない、また、その事実を次の世代に永く伝えることに意義があるものと信じ、本書を刊行いたしました。21世紀に向け、今まで以上に素晴らしい街を、今まで以上に力強く、そして、優しさにあふれたふるさとを造り上げ、次世代に残したい。そんな願いでいっぱいです。

平成8年3月1日

淡路町長 戸田種彦

震度分布図

各地の震度 (●数字)

※後に気象庁は、神戸市須磨区から西宮市にかけての長さ約20km、幅1kmの帯状の地域、宝塚市、淡路島の北淡、一宮、津名町を震度7(激震)と判定。



兵庫県内の災害救助法適用市町名 (10市10町)

神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、三木市、川西市、津名町、淡路町、北淡町、一宮町、五色町、東浦町、緑町、西淡町、三原町、南淡町

マグニチュードと震度の違い

★マグニチュード＝地震の規模(大きさ)を表す尺度。

マグニチュード(以下Mと略記)と地震波の形で放出されるエネルギーとの間には、標準的にMの値が1だけ大きくなるとエネルギーは約32倍に、2大きくなるとエネルギーは1,000倍になるという関係がある。

★震度＝Mは地震そのものの大きさを表すのに対して、震度はある地点の地震動による揺れの強さを表す量である。

震度	揺れの強さ
0(無感)	人体に感じないで地震計に記録される程度。
1(微震)	静止している人や、特に地震に注意深い人だけに感じる程度。
2(軽震)	大勢の人が感じ、戸障子がわずかに動くのが分かる。
3(弱震)	家屋が揺れ、戸障子がガタガタと鳴動する。
4(中震)	家屋の揺れが激しく、花瓶などは倒れ、器内の水があふれ出る。
5(強震)	壁に割れ目が入り、墓石が倒れたり煙突・石垣などが破損する。
6(烈震)	家屋の倒壊は30%以下で、山崩れが起き、地割れが生じ、立つていないことができない。
7(激震)	家屋の倒壊が30%以上。山崩れ、地割れ、断層などを生じる



カメラが見た大震災



1.17 戦慄の淡路町



瞬時のうちに町中が「ガレキの山」と化した。
民家が崩壊し、屋根瓦は崩れ落ち、ブロック塀
が倒れ込む。道路はあっという間に埋め尽くさ
れ、車は通れず、歩くことさえも困難だ。
兵庫県南部地震がもたらした、マグニチュード
7.2の恐怖を今、カメラで追ってみた。



壊れた民家や転石が道路をふさぎ、
通行の妨げに……………(神の前地区)





ガレキに出入口をふさがれ、
家の外に出るのも困難な様子
(西の町地区)



← (長浜地区)
ガレキの中を茫然自失で
歩を進める住民

(西の町地区) ↓





▲隣家にもたれかかるように
倒れ込んでいる民家(東の町地区)



ガレキで埋めつくされた
商店街のダメージも大きい



▲ 長浜地区で ▼

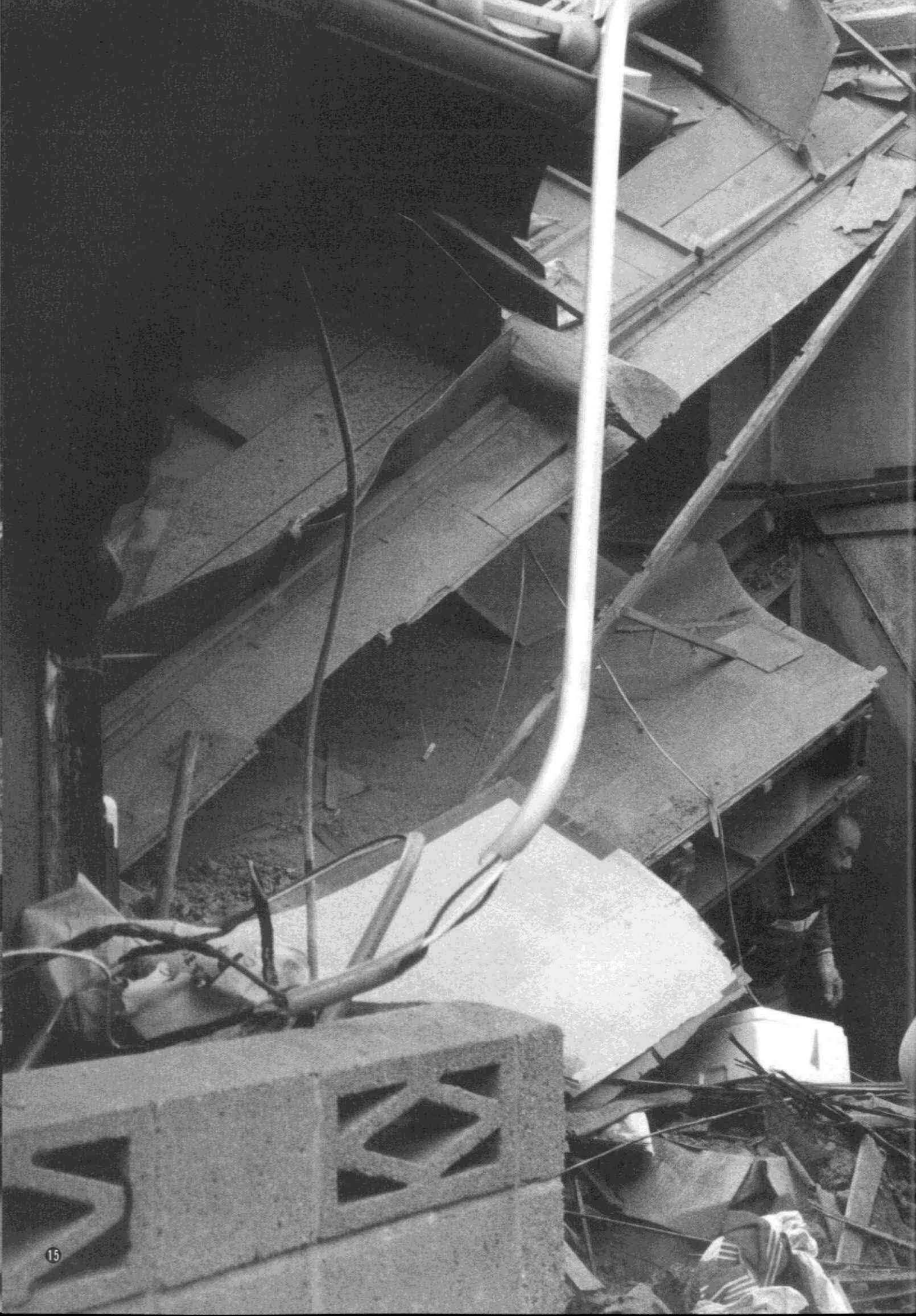


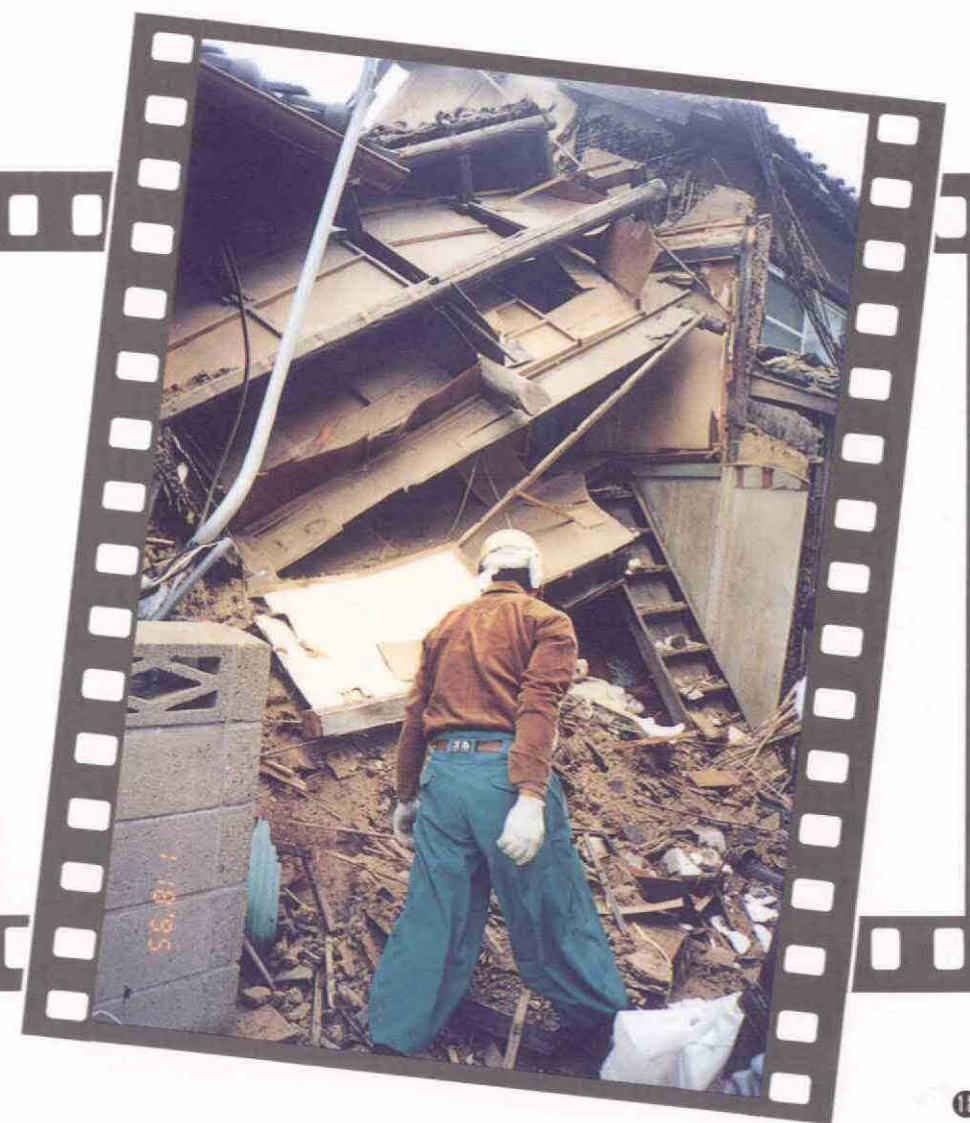


▲ 松帆地区で ▼



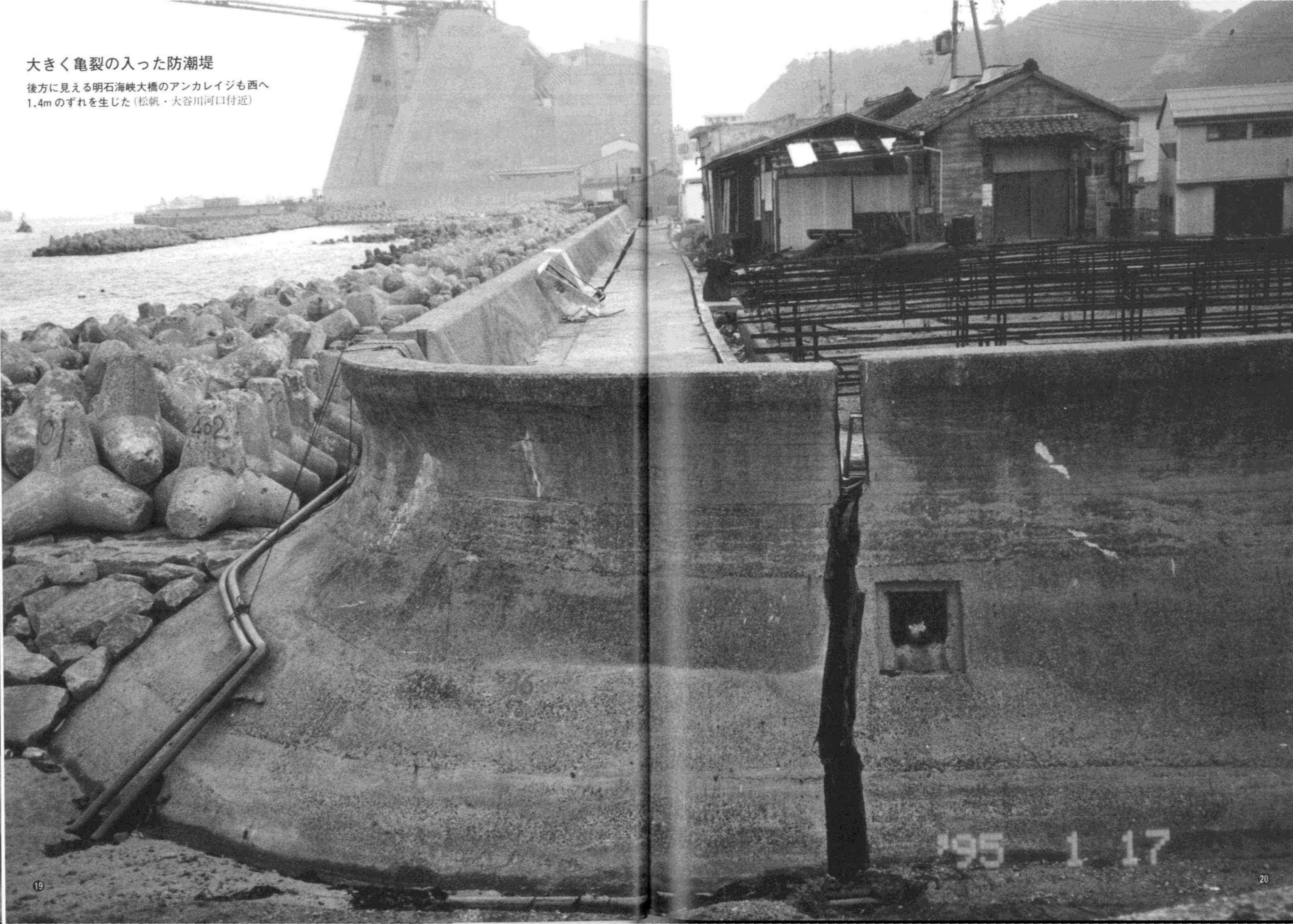






大きく亀裂の入った防潮堤

後方に見える明石海峡大橋のアンカレイジも西へ
1.4mのずれを生じた(松帆・大谷川河口付近)



'95 1 17

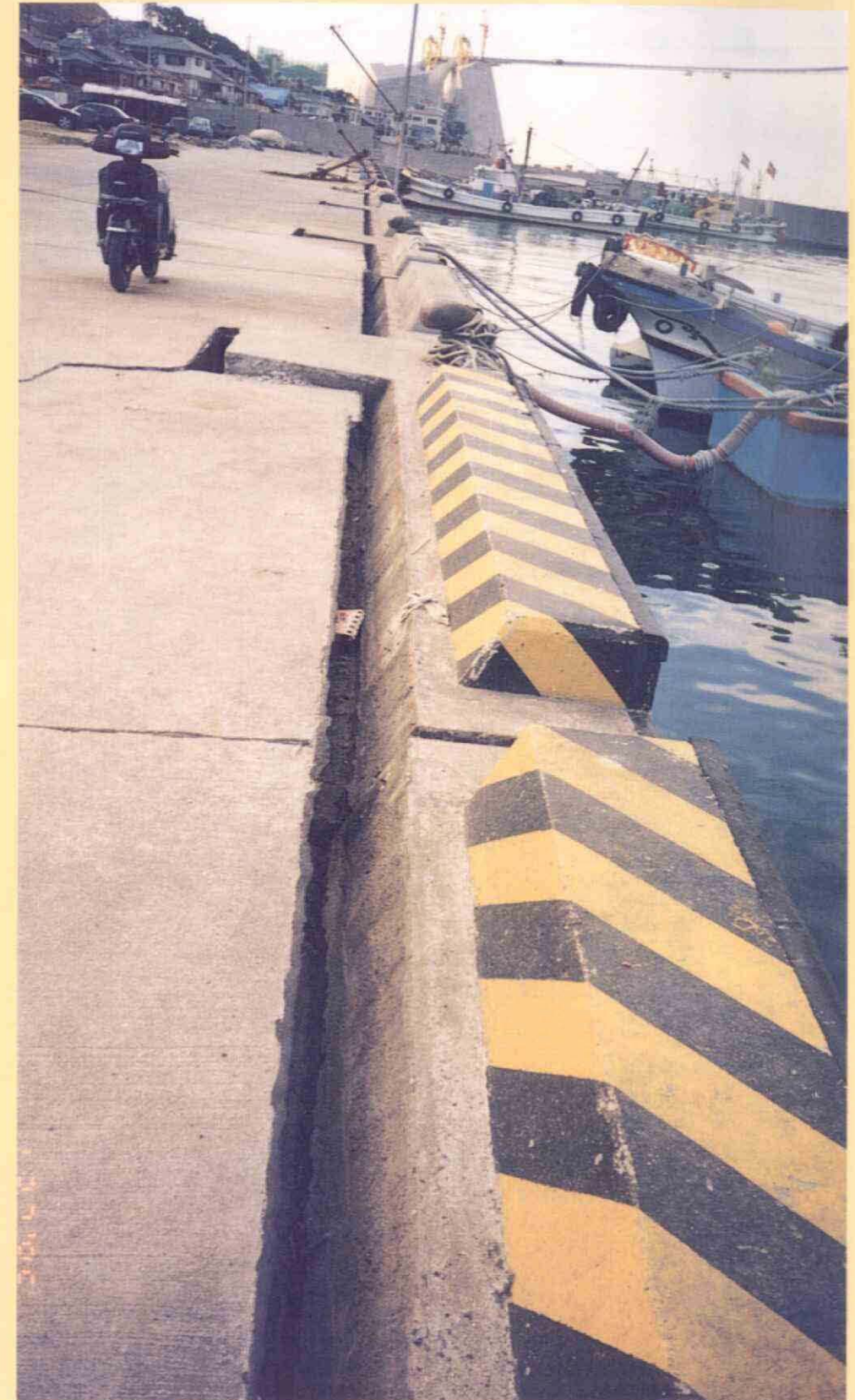
護岸施設等も大被害

漁港、港湾などの被害も甚大で
町の基幹産業ともいえる漁業に
大打撃を与えた



1995 1 17









至る所の農地では液状化現象
が見られた



民家のすぐ近くで大きな地割れが……



道路は岩石の崩落や地割れのため、
一時交通が遮断されたところもあり、
また、数ヶ所の水路ではコンクリート
に亀裂が入り、ブロック積の護岸
が壊れた。





震源地に近い松帆・港池公園では
園内道路が大きく陥没





備品類が散乱し、足の踏み場もない
役場庁舎内では、住民からの電話の
対応もままならない状態でした



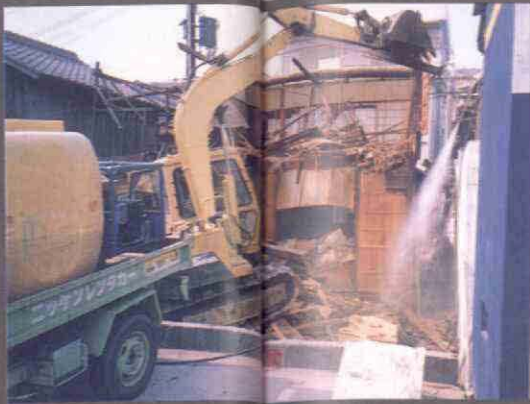


消防団や付近の住民、ボランティアの建設業者の人たちが力を合わせて路上のガレキを撤去しました。





解体状況



被災家屋を解体したガレキは南鶴崎の土取り跡地から、津名町・佐野新島へ運ばれ、生穂港区の埋め立て予定地に最終処分されました



平成7年10月5日(木) 神戸新聞

佐野新島に仮収容のがれき24万トン

生穂港区の埋め立てに

県センターへ処分委託

津名港生穂港区の埋め立てに用材に活用される。同協議会は六月に発足し、がれきに埋入している可燃物の除去や埋め立て地への運搬、海への投入などの具体的な方法を検討してきた。当初から、一連の事務処理を効率的に行うため、窓口の一本化が課題となっており、同センターへの委託が決まった。十月末にも業者の入札を行い、埋め立て作業は本年度中に終了予定。これらは、

津名港生穂港区の埋め立てに用材に活用される。同協議会は六月に発足し、がれきに埋入している可燃物の除去や埋め立て地への運搬、海への投入などの具体的な方法を検討してきた。当初から、一連の事務処理を効率的に行うため、窓口の一本化が課題となっており、同センターへの委託が決まった。十月末にも業者の入札を行い、埋め立て作業は本年度中に終了予定。これらは、

がれきが投入される津名港生穂港区の埋め立て予定地
二護岸の裏

支援の手

▼ 大型トラックで大量の救援物資が運ばれました



全国から寄せられた心温まる救援物資は、ボランティアのみなさんによってきめ細かく仕分けされ、被災者の手に届きました。

▲ 仕分け作業をするボランティアのみなさん



▲ 救援物資の配布では約2千人の被災者が集まりました
(石屋小学校体育館で)

▼ 疲れきった様子の避難者のみなさん



支援の手

家屋が倒壊し、町公民館などへ避難している方々に、ボランティアのみなさんが連日炊き出しにご協力下さいました。



協力

栄養のバランスも考えて、料理のメニューは日替で

来町の紀宮さま



お心遣いに住民感激

4月30日来町された紀宮さまから、励ましのお言葉を掛けられた被災者たちは、復興への意欲を新たにしました。



新聞報道より



朝日新聞社 東京都千代田区西千代田1-1-1
電話 03-5561-0111
発行部 03-5561-0111
印刷部 03-5561-0111
販売部 03-5561-0111
〒100-8702



水のクサカタ
Kurita
きょうの紙産
地震関係ニュース
●地震発生直後の様子
●被災地への支援
●被災者の生活
●被災者の声
●被災地の様子
●被災地の様子
●被災地の様子

死者1311人 不明1048人

近畿大震災 直下型M7.2

震源は淡路島 兵庫県に大被害

神戸・洲本で烈震

14日朝 兵庫県淡路島沖で発生した直下型地震の震源は、淡路島の南西沖にあり、震源の深さは約10キロメートルと推定された。震度は、兵庫県内では最大震度7を観測し、淡路島では最大震度6を観測した。震害は、淡路島を中心に、兵庫県内各地に及んだ。死者1311人、不明1048人、負傷者1万5千人以上、家屋倒壊約10万戸と推定された。淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。

淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。淡路島では、多くの家屋が倒壊し、大規模な火災も発生した。



兵庫県淡路島沖で発生した直下型地震の震源は、淡路島の南西沖にあり、震源の深さは約10キロメートルと推定された。

地震のため被害が甚大な神戸市
神戸市は、14日朝発生した直下型地震の影響で、市内各地で被害が甚大な被害を受けた。神戸市は、14日朝発生した直下型地震の影響で、市内各地で被害が甚大な被害を受けた。

府県別	合計	死者	負傷	不明
死者(人)	1311	1311	0	0
行方不明(人)	1048	1048	0	0
負傷者(人)	15000	15000	15000	0
家屋倒壊(棟)	100000	100000	100000	0

人と地球の健康のために。
島津製作所
計測機器 / 医用機器 / 航空・産業機器

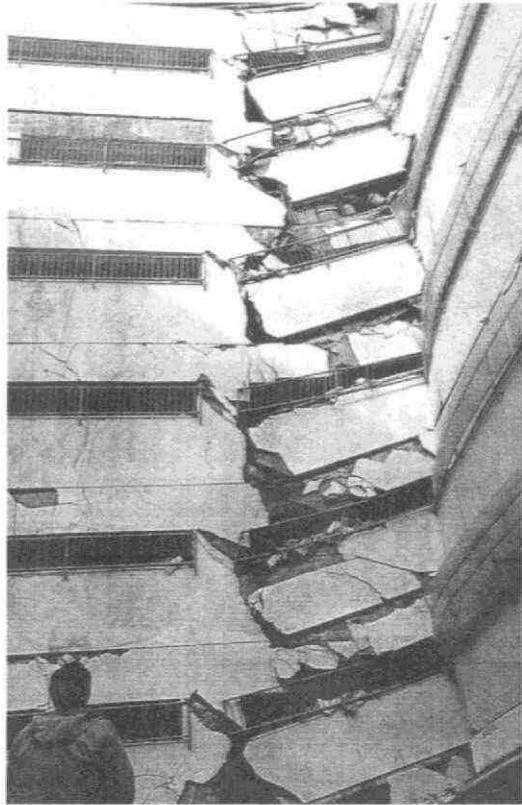
余震相次ぐ
14日朝発生した直下型地震の影響で、兵庫県内各地で余震が相次いで発生している。余震は、14日朝発生した直下型地震の影響で、兵庫県内各地で余震が相次いで発生している。



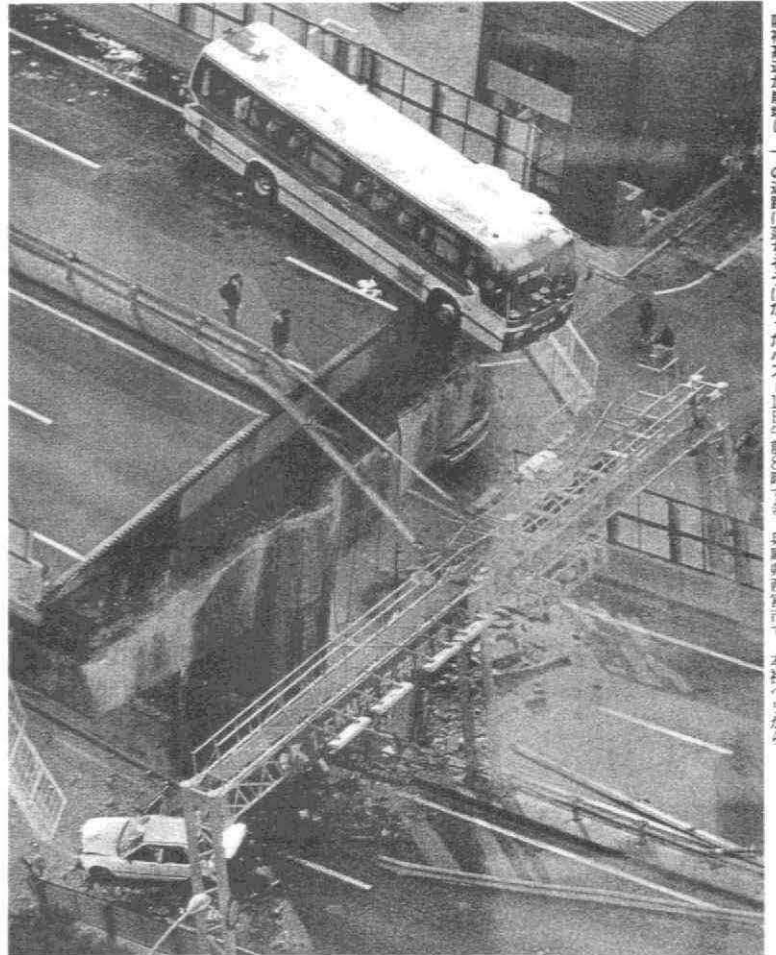
兵庫県内各地で余震が相次いで発生している。余震は、14日朝発生した直下型地震の影響で、兵庫県内各地で余震が相次いで発生している。

早稲田予備校
早稲田大学予備校
早稲田大学予備校
早稲田大学予備校

炎く巻く、陥没



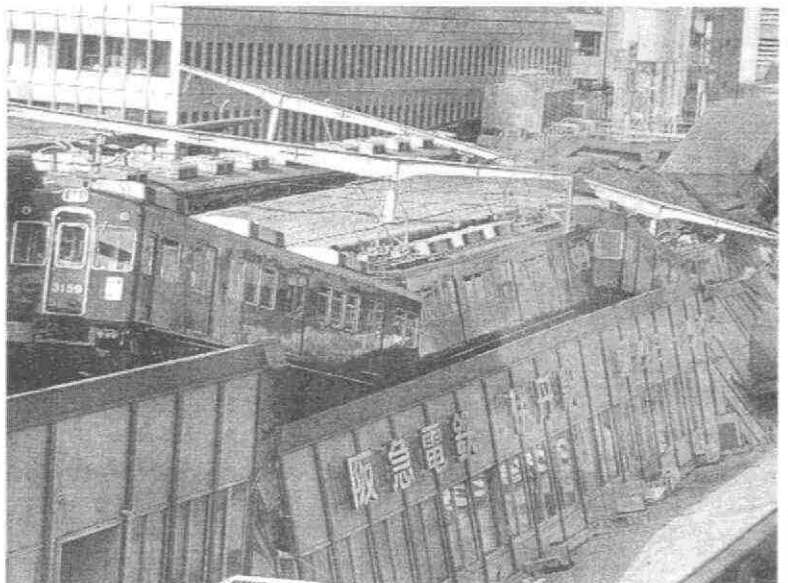
地震でつぶれたマンション—17日午前9時30分、兵庫県西宮市津門大塚2丁目



阪神高速が陥没し、下の道路に落ちたバス—17日午前8時すぎ、兵庫県西宮市、本社へりから



地震で燃える民家—17日午前8時すぎ、神戸市灘区



駅舎が崩壊した阪急電鉄伊丹駅—17日午前11時30分、兵庫県伊丹市

横ずれは1.6メートル

野島断層を 専門家調査

気象庁地震火山部の地震工学のグループなどが相次いで淡路島を訪れ、震源付近の断層などを調査している。助教授（自然地理）。

通産省地質調査所の粟田泰夫主任調査官ら二人は十八日に淡路島入り。十九日から二十四日までの予定で調査している。調査の結果、断層は南西方向に右に横ずれし、山側が海側にのり上がった形になっていることが分かった。最大のずれは津名郡北淡町野島平林で、右に一・六メートル、上下に一・二メートルずれていた。また、同町内では、島を東西に横切る道路が横に約一・一メートルずれている箇所も見つかった。

粟田調査官は「断層の端は、ひずみがたまりやすく、被害も大きくなりやすい。野島断層の南端は、最も横にずれた野島断層を調べ、通産省地質調査所の調査官ら。この地点では、直線の町道が山側（手前）と海側側で一・一メートルずれた。津名郡北淡町で



横にずれた野島断層を調べる通産省地質調査所の調査官ら。この地点では、直線の町道が山側（手前）と海側側で一・一メートルずれた。津名郡北淡町で

も犠牲者が多かった北淡町の富島地区付近ではないかと推定する。さらに断層の長さや地震の規模との関連や、本震がエネルギー

を放出しているかどうかについて詳しく調べるとしている。気象庁の地震観測班の四人は十八日までに北淡町役場に地震計や震度計などを設置、十九日は北淡町中心部の被害状況を調べた。あと、北から順に断層のずれなどを計測して回った。

各所で液状化現象

島内では地震による液状化現象が各所で起きた。津名港の甲子園フェリー

の駐車場付近では、道路と縁石の間に多数のきれつが生じ、噴き出したとみられる水や泥の跡が残っている。同フェリーに動乗る中尾元信さん（三〇）は「地震当日の十七日午後三時半ごろ津名港に来たところ、一帯が泥に汚れてぬれており、料金所に向かって車が激しく泥をはね上げていた」と話した。



砂が噴き出した水田。噴出口は大きく陥没し、稲の切り株がなぎたおされた。淡路町岩屋で

また、震源に近い淡路町岩屋では、海岸近くの水田に、噴火口のような陥没ができた。地震による断層のずれは、直径六十センチ、深さ四十センチほどの大きさ。陥没をほさき、北側は三十センチの高さに水田が隆起し、南側の半徑五メートルの範囲では、地中から流れ出した泥に、根元から十五センチのところで刈り取られたイネの切り株が埋まっていた。

被災者「生活に希望」

下陸両 お見舞い

阪神大震災



長い避難生活の被災者をお見舞いになられる天皇、皇后両陛下(31日午後4時50分、北淡町の町民センターで)

励ましのお言葉に感激

小雪の舞う中、温かいお言葉が届いた。三十一日、天皇、皇后両陛下のご視察があった北淡町町民センターでは、避難生活を送る住民は両陛下の励ましのお言葉に感激、まためどの立たない今後の生活に希望を再び抱いていた。

町民センターで、陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」

「さうさ」一時忘れ

天皇陛下の柔らかな笑顔、皇后さまの両手を合わせ「さうさ」に、避難生活のつらさを一時忘れ、なごみ多かったです。陛下は「お言葉は励みになります。お言葉は励みになります。」

無難な言葉も「さうさ」に、避難生活のつらさを一時忘れ、なごみ多かったです。陛下は「お言葉は励みになります。お言葉は励みになります。」

陛下は「本当に大変な災害で誠にご苦労さまでした。」



被災者には「さうさ」のお言葉をおかけになる陛下(31日午後4時45分、北淡町民センター)。

阪神・淡路大震災から1年



震災直後の写真を持つ、主婦の新本ヒロ子、大久保スミ子、中島幸恵、朝田峰子のみなさん（左から）。いつも明るい笑顔を見せない神戸市灘区友田町

1.17 励ま

多岐にわたる被災者の苦しみがある。早く長い日々だったとこの感慨がある。その苦しみは、被災者だけでなく、被災者を取り巻く人々の心にも深く刻み込まれている。被災者だけでなく、被災者を取り巻く人々の心にも深く刻み込まれている。被災者だけでなく、被災者を取り巻く人々の心にも深く刻み込まれている。

365日



震災で壊れた自宅跡地で「一から出直しや」と、夫婦で建て替える山本隆明さん（神戸市東灘区水産通6）。昨年2月11日

1年後、地元の出づくり協議会役員として多忙で、跡地は更地のまま



大火で喫茶店は全壊したが、翌日から店主の岡本美治さん（中央）は、焼け跡で無料コーヒーを振る舞い、被災地のオアシスとなった神戸市東灘区有田町（昨年2月5日）

1年後、プレハブながら復活した店先で、岡本さんらは笑顔を見せる



震災ブルック。防じん用のマスクとリュックサックは必需品だった神戸市中央区小野浜通（昨年2月24日）

1年後、通を行く人の表情もファッションも明るくなった



1年後、待機所で夕食の支度をする家族ら。教育や動物の都合などで、ほろ嫌れた町を離れられない神戸市東灘区東灘区民センター



1年後、建て替えた自宅跡地を眺める山本隆明さん（神戸市東灘区水産通6）



阪神・淡路大震災から1年

<テレビ番組は23面>

阪神・淡路大震災
あれから1年

追跡

ドキュメント

阪神・淡路大震災/ドキュメント

1995(平成7)年1月17日午前5時46分、観測史上初の震度7の激震が兵庫県南部を襲った。

夜明け前の真っ暗な空に閃光が走り、ド、ドーンという轟音と共に天を突き上げるような衝撃で、あの悪夢のような一日が始まった。

その時、漁に出ていた人の話によると、突然波が盛り上がり、空が光り、対岸に見える街の灯りが次々と消える異常事態に、あわてて港に引き返したという。

淡路から神戸・阪神間にかけて、いくつも走る活断層群が千数百年にわたりため込んだ膨大なひずみエネルギーを一気に爆発させ、自然災害としては戦後最大の惨事となった阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)は、約20秒間の激震で、死者6千3百余人、損壊した家屋が20万棟を超えるという大被害をもたらした。

当町でも、死者1人、重傷者6人、軽傷者51人を出し、家屋の損壊も全半壊した数は1,000戸を超え、一部破損も含めるとほぼ全町民が何らかの被害を被った。

町内4箇所の避難所には、1日平均63.3人(最大145人)の方が56日間も不自由な生活を強いられた。

ただ、狭隘道路の多い町並みの当町にとって、せめてもの救いであったのは、神戸市長田区のように二次災害で火災の発生がなかったことである。

ここに、震災当時のさまざまな動きを振り返り、今後の防災の貴重な教訓として、また、この事実を永く語り伝える資料として記録に残し、全国各地の方々から寄せられた多くの心温まるご支援、救援活動等にご協力をいただいた関係機関・ボランティアの方々のご厚意を忘れることなく、心優しいふるさと「あわじ」の一日も早い復興を願うものである。

1月17日

- 5:46 地震発生。
- 5:49 NHKテレビが「非常に大きな揺れを感じた」と第一報。安否を気遣う電話が関西地区に集中し、一部で不通に。
- 5:53 神戸市長田区で火災発生。
- 5:55 大阪管区气象台が地震に関する情報第1号を発表。「震源地は淡路島北部、マグニチュード7.2と推定、京都市などで震度5」と発表。
- 6:00 関西・四国のJR、名神高速も全面ストップ。東海道・山陽新幹線も始発から運転を取り止めた。

1月17日

6:00 淡路町では、上水道の被害調査と同時に破損箇所の復旧作業を開始。(町内で約930件の断水)



地震発生直後から上水道の復旧作業が続けられた

6:13 大阪管区气象台が地震情報第6号で「神戸市などで震度6の烈震」と発表。(後に、気象庁は現地調査の結果、震度7の激震と判定した地域は神戸市須磨区から西宮市にかけての長さ約20^{km}、幅1^{km}の带状の地域、宝塚市、淡路島の北淡、一宮、津名町でも確認されたと発表)

マグニチュード7.2。大阪管区气象台によれば、震源は淡路島の北東約3^{km}の明石海峡付近。(18日に特定)

6:19 英国ロイター通信が「日本で強い地震」と緊急電。

7:00 兵庫県の災害対策本部設置。

7:30 大阪管区气象台が記者会見。「活断層がずれたらしいとしか分かりません」

7:35 阪神高速道路が神戸市東灘区で倒壊判明。
兵庫県警が淡路島で女性1人の死亡を確認。

7:38 近畿地方にマグニチュード4.9の強い余震。

8:00 淡路町が災害対策本部設置。

8:30 町の被害状況を把握するため、第1次被害状況調査班出発。

8:45 村山首相が「万全の対策を講じる」とのコメントを発表。

10:00 政府が兵庫県南部地震非常災害対策本部と地震対策関係閣僚会議の設置を決定。

10:45 武村蔵相が「災害への財政的な手当については緊急的なものだから最善を尽くしたい」とコメント。

11:00 気象庁が「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」と命名。

14:00 町公民館など4カ所の避難所を設置。(消防団、町内会等による避難者の誘導開始)

大蔵省と日銀が、印鑑、通帳を紛失した預金者の便宜を図るなど、特別金融措置を金融機関に指示。



▲家屋が壊れ町公民館などへ避難された方は延3,544人を数えた

1月17日

- 16:00 村山首相が緊急会見、現地入りの意向を表明。
「関東大震災以来最大の都市型災害。人命救助で万全を期す」と表明。
- 17:15 町職員が各避難所及び庁舎の24時間災害待機体制に入る。
厚生省が災害救助法を適用。(県内の対象自治体は10市10町)

1月18日

町が社会教育施設の一般使用停止を決める。(3/31まで)

- 6:50 神戸市で震度3(弱震)の余震があり、有感余震は計72回に。
- 8:30 淡路町で、給水車が出勤。
(26日までの9日間で延べ58台、38㎡が断水家庭へ配られた)
- 8:55 洲本市の親子5人が地震によるガス漏れで中毒。3人が死亡。(2月12日にさらに1人死亡)
- 11:00 気象庁が「今後マグニチュード6程度の余震が発生する可能性があり、1カ月は注意を」と発表。
- 12:33 連立与党3党首(村山、河野、武村)による災害対策の党首会談。
- 15:00 北淡町で犠牲者38人の合同葬儀。一宮町でも合同葬儀。

平成7年1月19日 読売新聞

一家3人ガス中毒死
他に6人重軽傷 管にひび、漏れる 洲本

十八日午前八時五十分ごろ、兵庫県洲本市上物部のアパートに住む会社員平野昭和さん(四十六)と妻の節子さん(四三)、三女の則子さん(二〇)(洲本第三小四年)の三人が、一酸化炭素中毒で死んでいるのが見つかった。一階にいた長女の尚子(一七)も一酸化炭素中毒で死亡した。十七日夜よみ

さん(三) (芦屋中一年)とられる。平野さん方横の路地に埋設されている都市ガスの供給管からガスが漏れており、十七日の地震で供給管にひびが入り、漏れたガスが平野さん宅に侵入したらしい。

1月19日

各町内会へ食糧品、医薬品、カイロ等の救援物資配布。(第1回目)



◀全国から寄せられた救援物資は、各町内会を通じて被災住民の手に……

- 9:16 スイスから災害救助隊25人と救助犬12頭が、関西国際空港に到着。自衛隊ヘリに乗って、ただちに神戸入りし、初日に5遺体を発見。
- 10:36 神戸で震度3(弱震)の余震(マグニチュード4)を記録。体に感じないものを含めると、余震の総回数は約800回に。

1月19日

- 11:32 村山首相が被災地視察のため、伊丹空港に到着。
土井たか子衆議院議長とともに自衛隊ヘリに乗り換えて上空から視察した後、市内の病院や避難所などで被災者を見舞った。
- 15:00 神戸港の港湾施設の甚大な被害が分かる。
- 15:40 村山首相が兵庫県公館で記者会見。「想像を絶する、誰も予測しえなかった、予想を超えた災害だ」
- 18:59 洲本で震度3(弱震)の余震(マグニチュード4.2)を記録。
(20日0時までには、有感地震91回、体に感じないもの815回)
- 20:02 帰京した村山首相、閣僚会議を格上げした緊急対策本部の第1回会合開催。

1月20日

- 7:00 前夜から神戸市内でさらに10数件の火災が発生。
- 9:00 日銀神戸支店で都市銀行など13行の預金払い戻しを開始。
- 9:30 兵庫県は、避難所に避難している住民は283,000人と発表。
- 10:00 町議会議員協議会を開催。(被災状況の把握、対策について)
- 11:05 国会で土井たか子衆議院議長が哀悼の辞。
- 11:30 兵庫県内の断水は95万世帯、ガス停止も85万世帯と判明。

1月21日

- 0:00 神戸市消防局、市内の焼失面積が100haを超えたと発表。
- 13:00 淡路町町内会長会を開催。この時点でガレキの運搬、処分費のみ町が負担すると発表。(1月31日申込締切)
- 17:00 地震後、初の雨の予報で、二次災害の恐れのある地域住民が避難。
- 21:12 北淡町で震度4、神戸で震度3の余震。

1月22日

- 淡路町で仮設住宅の建設工事が着手される。
町議会議員が災害現地を調査し、災害対策本部長に対して、早期復旧と町民生活の安定に尽くすことを望む意見書を提出する。
- 4:30 兵庫県南東部と淡路島に大雨・雷・強風・波浪注意報発令。
地震発生後、初めて被災地に雨が降り、地震で地盤の緩んだ場所では、土砂崩れや崖崩れが相次いだが、事前の避難などで人的被害はなかった。
- 23:37 気象庁は余震が1000回に達し、うち有感地震は105回と発表。

1月23日

- 被災家屋のガレキ処分申請受付開始。(1/23~1/31)
- 町内4カ所の避難所へ巡回健康相談を開始。
- 町内の避難所へボランティアが炊き出し。(1/23~3/10)



▲避難者への炊き出しに延373人のボランティアが活躍

1月23日

13:00 政府の現地対策本部が県公館で初会合。
17:00 関西電力が被災地全域への送電を再開と発表。
19:00 町内の上水道復旧工事が完了。

1月24日

神戸市兵庫区で、市水道局職員が心労のため自殺の報。

平成7年1月25日 読売新聞

水道復旧作業の神戸市職員自殺

阪神大震災で水道の復旧作業に当たっていた神戸市水道局主査中西隆さん(三七)(西区竹の台六)が、勤務先の同市豊平野浄水場(兵庫区楠谷町)で飛び降り自殺していたことが、二十四日わかった。

兵庫署の調べによると、二十三日午前五時半ごろ、同浄水場の管理事務所(三階建て)屋上から飛び降り

た中西さんを同僚が目撃。中西さんは頭などを打って、ほぼ即死状態だった。同署は心労が重なったのが動機とみている。

中西さんは一九七七年四月、電気職として市に採用され、同浄水場では水質管理に従事。震災後、二十一日に一度帰宅した以外、泊まり込みで復旧作業に当たっており、当日は午前二時から仮眠していた。同僚によると、責任感が強く、まじめな性格だったという。

14:00 第五管区海上保安本部、震源域の海底調査で須磨沖にも断層確認。

1月25日

淡路町で仮設住宅への入居申込受付開始。
淡路町で災害援護資金貸付申請の受付開始。
淡路町で罹災証明書の発行開始。

1月27日

15:00 本州四国連絡橋公団第一建設局が「明石海峡大橋淡路島側アンカレイジが、西へ1.4m ずれた」と発表。

1月28日

政府は損壊した住宅や中小企業者が所有する建物の解体や、ガレキの処理作業を市町村が行い、その費用の半額を国が補助することを決めた。
(淡路町では30日に、解体は無料との住民向けのチラシを配布)

1月30日

各町内会へ食糧品、衣類、日用品等の救援物資配布。(第2回目)
11:00 兵庫県は仮設住宅について、原則として被災者全員が入居できるよう7万戸確保を発表。

1月31日

天皇、皇后両陛下が、淡路島で最も被害の大きかった北淡町を訪問され、被災者に励ましのお言葉。

2月1日

石屋小学校、岩屋中学校で避難訓練を実施。

2月2日

仮設住宅の入居開始。第1号は五色町都志に完成した4戸。
避難所生活の49歳男性が六甲山中で自殺。

2月3日

山形大の前田保夫教授らが、複数の活断層が動いた地震と推定。
(15日に三ノ宮で地震断層発見)

2月5日

14:00 被害が大きかった新長田・若松地区の合同葬儀が行われ、105人の冥福を祈る。

2月6日

淡路町に全日本プロレスのジャイアント馬場さんが激励に訪れる。



◀ ジャイアント馬場さんに激励される避難者のみなさん（淡路町公民館で）

2月8日

23日ぶりにすべての県立全日制高校130校で授業再開。

2月9日

9:30 関西財界人を集めた震災復興会議が大阪で開催。

2月10日

淡路町は、倒壊家屋等の解体申請の受付を延長した。(2月28日締切)

淡路町で、鶴崎仮設住宅の入居が始まる。

町議会議員協議会を開催し、町当局から震災に関する現状と今後の対応について報告聴取。

政府が「復興委員会」設置を閣議決定。

平成7年2月10日 産経新聞

淡路町が鶴崎地区で建設を進めていた被災者のための仮設住宅十九戸が完成、十日から入居が始まる。入居に先立ち九日午後二時から現地で入居説明会が行われた。町では入居世帯にホームコートを贈る。なお入居にあたり同町内の女性たちが、軽トラックを持ち寄り「引っ越しボランティア」を引き受ける。

待望の仮設住宅
きょうから入居

淡路町

2月12日

岩屋中学校生徒会のメンバーを中心に、救援物資の仕分け作業ボランティアに参加。

2月14日

震災名が「阪神・淡路大震災」と閣議決定される。淡路町で、被害届けの受付を開始。(17日まで)

2月16日

18:00 政府の復興委員会が初会合。

2月17日

12:00 激震が襲った午前5時46分に県庁内で災害対策本部会議が開かれ、犠牲者を追悼するため、各官公庁に半旗が掲げられる。正午に兵庫県庁屋上の鐘が鳴らされ、県庁前広場では職員約500人が一分間の黙祷。

淡路町庁舎内でも全職員が一分間の黙祷。

明石市立天文科学館の大時計が、正午、1カ月ぶりに動きだした。

18:00 淡路町で、倒壊家屋等の解体工事説明会が保健センターで行われる。

各町内会へ食糧品、衣類、日用品等の救援物資配布。(第3回目)

2月20日

第120回淡路町臨時議会を開催。(災害対策関係の補正予算を審議)

淡路町議会が「兵庫県南部地震災害対策特別委員会」を設置。

2月26日

淡路町で、全国から届いた救援物資の配布が石屋小学校体育館で行われ、約2千人が訪れた。

平成7年2月27日 朝日新聞

<p>子供たちに おもちゃも 救援物資配布 淡路町</p> <p>淡路町は二十六日、同町岩屋の石屋小学校体育館で、全国から集まった心温まる救援物資を町民に配布した。</p> <p>避難所や仮設住宅で暮らす被災者へは衣料品などの配布をほぼ終えており、今回は余剰の衣服などを配つ</p>	 <p>救援物資のおもちゃに遊ぶ子どもたち。淡路町岩屋の石屋小学校体育館で</p>
<p>た。町内の約千七百世帯すべてに事前に引換券代わりのちらしを配り、この日は約半数の千三百世帯が訪れた。</p> <p>町民はちらし一枚で五品を上限に自由に品物を選ぶ仕組み。体育館には二十日間近くかけて、ボランティアらが「婦人服」「子供服」などの掲示板とともに仕分けした物資が、所せましと並べられた。</p>	<p>物陰で衣類を試着する町民や、ぬいぐるみなどを大喜びで品定めする子どもの姿もみられた。</p> <p>吉田明夫事務局長(左)は「子供服などはまだかなり余っている。全国からの好意を無にしないためにも、二十八日に品数の制限を設けず、全町民を対象に配布したい」と話していた。</p>

また、婦人会や石屋小学校児童が救援物資仕分け作業ボランティアに参加。

2月27日

淡路町保健センターで倒壊家屋等解体工事の業者ヒアリング始まる。

3月1日

町営ぬるゆ温泉児童公園災害復旧工事を行う。(3/1~3/14)

3月9日

町議会が「兵庫県南部地震による被災者並びに地方公共団体の負担軽減を求める意見書」を関係行政庁に提出する。

3月13日

淡路町は、仮設住宅への入居等で避難者が居なくなったため、町内4カ所の避難所を閉鎖した。

3月14日

淡路町で、被災者の方々に見舞金が支払われた。(全壊世帯に30万円、半壊世帯に20万円)

3月20日

淡路町は、倒壊家屋等の解体申請受付を再度延長。(3月24日締切)

3月29日

鶴崎集会所で、講師に生村吾郎先生(生村神経科院長)を招き、「震災後の心のケア」講演会を開催。

3月31日

淡路町で災害援護資金の貸し付けが始まる。

4月8日

石屋小学校体育館に、歌手の泉谷しげるさんがボランティアで訪れ、楽しいひとときをプレゼント。



◀泉谷しげるさんの手づくりコンサートで被災者の心も和みました
(石屋小学校体育館で)

4月12日

仮設住宅入居者に「心のケア」「健康管理」のパンフレット配布。

4月13日

仮設住宅入居者による自治会が発足される。

4月21日

町議会の兵庫県南部地震災害対策特別委員会が、今回の地震により大谷ダム等の溜め池が大きな被害を受けたことにより、深刻化している水資源の確保の方策を研究するため、長崎県平戸市の海水淡水化施設を視察した。

4月30日

紀宮清子内親王殿下が震災見舞いで淡路町をご訪問。



▲震災後の漁の様子などをお聞きになられる紀宮さま(岩屋港荷捌き所付近で)

5月1日

10:00 震災復興の最大の課題である住宅復興促進のため、淡路総合住宅相談所が北淡町民センターに開設。

淡路町で、要援護家庭激励金の申し込み受付開始。

5月3日

鶴崎の仮設住宅へボランティアグループ「マーガレット」のみなさんが花のプレゼント。

5月12日

第1回淡路町震災復興計画検討委員会を公民館で開催。

5月18日

鶴崎の仮設住宅入居者に対して「今後における住宅確保のアンケート」を実施する。

5月25日

町議会の兵庫県南部地震災害対策特別委員会を開催。
(災害公営住宅、ガレキ処理状況等の進捗について)

5月26日

淡路町で、要援護家庭激励金の支払いが始まる。(1世帯当り30万円)

6月1日

鶴崎の仮設住宅にエアコン設置工事が始まる。

6月2日

第2回淡路町震災復興計画検討委員会を公民館で開催。

6月19日

釜口漁港の災害復旧工事を行う。(6/19~H8.2/14)

6月22日

岩屋漁港の災害復旧工事を行う。(6/22~12/18)

6月23日

町の復興計画策定に向け、町内全世帯を対象に「震災復興アンケート」を実施。
(回収率89.4%)

6月26日

岩屋県民サンビーチ裏山の転石除去工事を行う。(6/26~7/7)



▲民家の庇を直撃した巨大な転石(県民サンビーチの裏山で)

6月30日

淡路町の被災家屋解体撤去作業が完了。

7月8日

兵庫県が「ひょうごフェニックス計画(案)」を発表。

7月10日

岩屋宇古城跡(城山付近)で治山工事を行う。(7/10~11/6)

7月15日

鵜崎ふれあいセンター(仮設住宅)開所。



▲鵜崎ふれあいセンターは交流の場などとして広く利用されています

7月17日

鵜崎の仮設住宅入居者に「健康アンケート調査」を実施。

7月21日

淡路町における仮設住宅(全123戸)への入居が完了する。

7月30日

1市10町等の主催による「淡路島いきいきフェスティバル」が北淡町の北淡東中学校グラウンドで開催され、会場には特産物を販売する青空市やたくさんの芸能人によるショーに1万人の人出で賑わい、淡路島復興への心意気を全国に向かって発信した。



◀7月30日、「淡路島いきいきフェスティバル」に集まった人は約1万人。元気な姿で復興への意欲をみなぎらせていました。(北淡東中学校で)

8月8日

石屋小学校及び付属幼稚園の災害復旧工事を行う。(8/8~10/28)

8月10日

淡路アソンプレホールの災害復旧工事を行う。(8/10~10/20)

8月14日

恒例の「淡路町夏まつり」が石屋小学校グラウンドで実施され、花火大会こそ自粛したものの約2千人の町民が集い、復興への力強い決意を表した。



夏まつりには、同じ被災地の神戸から「神戸華僑総会獅子隊」も参加され、復興に向けて大いに盛り上がりを見せた



8月17日

農業憩いの家の災害応急修繕工事を行う。(8/17~9/29)

8月20日

鶴崎仮設住宅内ふれあいセンター広場で、盆踊り大会実施。

8月21日

淡路町で、持ち家の修繕や賃貸住宅入居のための助成金申請受付を開始。
(上限30万円 平成10年3月31日まで受付)

8月25日

「淡路町震災復興計画策定委員会」の委員を委嘱する。

8月30日

「淡路町中小企業災害復旧資金利子補給規則」が施行される。

9月1日

淡路町庁舎の災害復旧工事を行う。(9/1~12/25)

9月4日

町の義援金配分委員会が第1回目の会合を開催し、全国から寄せられた義援金の配分方法等について検討。

9月7日

町議会の産業建設衛生常任委員会が、地震災害から力強い復興を進めている北海道・奥尻町を訪問し、災害復興のあり方を調査・研究した。

9月25日

町の義援金配分委員会が第2回目の会合を開催。

10月11日

勤労者体育センターの災害復旧工事を行う。(10/11~11/8)

10月16日

第3回淡路町震災復興計画検討委員会を公民館で開催し、素案がまとまる。

10月19日

岩屋中学校で、崖崩れ補修工事が始まる。

10月20日

岩屋中学校校舎の災害復旧工事が始まる。

10月26日

淡路町で、持ち家の修繕や賃貸住宅入居のための助成金(30万円)の支払いを開始。

11月16日

全国から寄せられた義援金の中から、被災住民の生活援助及び店舗の活性化事業として、町内の商店で使用できる「お買物券」を全世帯に配布。

11月24日

淡路町震災復興計画の素案を議会議員協議会に説明。

12月7日

津名町のしづかホール駐車場内に「津名・心のケアセンター」が開所。

平成8年

1月16日

政府は、首相官邸で阪神・淡路復興対策本部の第6回会合を開き、首相は被災地復興に全力で取り組むよう指示。

1月17日

5:46 震災から1年。各地では犠牲者を悼み、復興への誓いを新たにす
る様々な催しが開かれた。

テレビでは、夜明け前から深夜に至るまで報道特番を放映。

17:46 県立淡路島公園で、淡路町のはやしお太鼓保存会が犠牲者への鎮
魂と被災者の希望を未来につなげる思いを込めて、太鼓を演奏。
これは神戸の復興支援グループの呼び掛けで「ひびけ！鎮魂と希
望の太鼓」と題したイベントに参加したもので、日本国内は元よ
り海外の各地でも一斉に太鼓を打ち鳴らし、鎮魂と復興への思い
が世界中の空に力強く響き渡りました。



▲寒空の下、世界中に届けとばかりに力強く太鼓を打ち鳴らすはやしお太鼓保存会のみなさん
(県立淡路島公園で)



資 料 編

兵庫県南部地震の概要と被害状況等

震源地及び震度

兵庫県南部地震の本震は、平成7年1月17日(火)午前5時46分頃発生し、震源地は淡路島北部(北緯34度36分、東経135度03分)、震源の深さは約14km、マグニチュード7.2で最大震度は観測史上初の7を記録した。

これに伴う余震は、2月17日までの1ヵ月間で1,521回に達し、このうち248回(北淡町等で震度4が最大)の有感地震を記録している。

地震のタイプ

深さ14kmという比較的浅い部分で発生し、断層が横にずれることによって起こったもので、大きなエネルギーが一挙に解放されるタイプであった。このため、地震の継続時間は短い(約20秒)反面、振幅が最大18cmという観測史上最大の強い揺れを観測。人口350万人余りが密集する淡路島北部から神戸市及び阪神地域の直下で発生した、内陸・都市直下型地震であった。

被害の状況

人的被害

自治省消防庁の発表によれば、兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)による震災死者数は、関連死を含めて6,308人(平成7年12月26日現在)で各地の内訳は、表1のとおりである。

なお、その他行方不明者が2人、負傷者が43,177人。住家被害では全壊した家屋が100,302棟となっている。

表1 各地の震災死者数

(単位：人)

区 分		死 者 数
兵 庫 県	神戸市	4,484
	尼崎市	48
	西宮市	1,107
	芦屋市	433
	伊丹市	19
	宝塚市	116
	川西市	2
	明石市	8
	加古川市	2
	三木市	1
	洲本市	4
	津名町	5
淡路町	1	
北淡町	39	
一宮町	10	
小 計	6,279	
大 阪 府	大阪市	16
	堺市	1
	豊中市	8
	池田市	1
	吹田市	1
箕面市	1	
小 計	28	
京 都 府	大山崎町	1
	小 計	1
合 計	6,308	

淡路町仮設住宅の状況

淡路町で、1月22日から7月16日までに建設した仮設住宅は鶴崎地区に115戸、森地区に8戸、合わせて123戸で、7月21日に入居が完了した。

ボランティア活動の状況

この災害では、ほぼ全町民が何らかの被害を受けたにもかかわらず、比較的ダメージの少なかった方々の多くが、ボランティアとして様々な形で被災住民の救援活動に参加していただきました。

(1月17日～3月31日)

仮設住宅への引越しボランティア	29人
救援物資の仕分けボランティア	133人
被害調査のボランティア	20人
断水家庭への給水ボランティア	28人
道路上のガレキ撤去ボランティア	78人
避難所への給食ボランティア	373人
計(延べ)	661人

※延べ661人のうち、町外から110人の方々がボランティアに参加していただきました。

被災家屋の解体処理状況



淡路町が実施した被災家屋等の解体処理工事は、全部解体が443件、屋根瓦の撤去等一部解体が343件、その他ブロック塀等の解体が36件で、合計822件の解体工事を実施し、総額で約6億5百万円を要した。



仮設住宅入居者に花のプレゼントをするボランティアのみなさん

淡路町の住家被害等

被害区分		件数	被害額(千円)
住家被害	全壊	333世帯	1,180,674
	半壊	668世帯	
	一部損壊	1,611世帯	
	計	2,612世帯	
その他	道路	43箇所	220,977
	河川	1箇所	3,298
	水道断水	930世帯	7,853
	公園	2箇所	43,589
	町営住宅	9棟	146,688
	港湾	1箇所	660,193
	漁港	3箇所	740,167
	海岸	1箇所	49,885
	砂防施設	2箇所	22,151
	農業災害	48箇所	167,420
公立文教施設		6箇所	72,625
農林水産業施設		4箇所	33,821
その他の公共施設		3箇所	57,637
合計			3,406,978

(平成7年10月9日現在)

淡路町避難所の状況

避難所名	開設期間	避難者数	備考
淡路町公民館	1月17日～3月10日 53日間	2,466	1日平均 63.3人 1日最多 145人
神の前集会所	1月22日～1月29日 8日間	22	
西の町集会所	1月17日～3月13日 56日間	821	
長浜集会所	1月17日～3月4日 47日間	235	
計	1月17日～3月13日 56日間	3,544	

この避難所へ、延べ373人のボランティアのみなさんが1日2食の給食(合計で5,631食)を47日間にわたって作って下さいました。

災害見舞金等の支給状況

(単位：千円)

区 分		世帯数	町見舞金等	県援護金	日赤義援金	計
住	全壊世帯見舞金等	333	33,300	33,300	33,300	99,900
	半壊世帯見舞金等	668	33,400	33,400	66,800	133,600
	小 計	1,001	66,700	66,700	100,100	233,500
宅	持ち家修繕助成金	55			16,500	16,500
	賃貸住宅入居助成金	21			6,300	6,300
	小 計	76			22,800	22,800
死亡者弔慰金・見舞金		1	2,500		100	2,600
重傷者援護金・見舞金		6		60	300	360
要援護家庭激励金		117			35,100	35,100
被災児童生徒教育助成金	高校生 「除く 県立」	教科書助成	17		340	340
		新入生助成	5		250	250
	保育所	新入生助成	15		150	150
	幼稚園	新入生助成	14		140	140
	小学生	新入生助成	10		200	200
	中学生	新入生助成	7		350	350
合 計		—	69,200	66,760	159,830	295,790

(平成7年10月9日現在)

災害援護資金貸付申込の受付状況

貸付区分	全 壊		半 壊		計	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
350万円	75	262,500			75	262,500
300万円	5	15,000			5	15,000
250万円	10	25,000	9	22,500	19	47,500
200万円	3	6,000			3	6,000
170万円	2	3,400	89	151,300	91	154,700
150万円			9	13,500	9	13,500
120万円			1	1,200	1	1,200
100万円	2	2,000	2	2,000	4	4,000
80万円			1	800	1	800
70万円	1	700			1	700
	98	314,600	111	191,300	209	505,900

(平成7年10月31日現在)

義援金の配分等

全国から淡路町に寄せられた義援金については、平成8年1月17日現在で1,406件、78,875千円に達し、「淡路町兵庫県南部地震災害義援金配分委員会」で検討した結果、次のとおり配分した。

配分内訳	金額(千円)	備考
県募集委員会へ納付	5,225	
仮設住宅にエアコンを設置	4,155	2年間リース料 90,000円×43台 個人設置助成金 23,690円×12台
仮設住宅用地の借上料	14,074	700円×9,388㎡×2年1.7ヵ月
ふれあいセンターの管理運営費用の助成	895	7年度 395千円 8年度 500千円
町内全世帯にお買物券発行	24,600	被災住民の生活援助と町内の店舗の活性化につなげるため 1万円×2,460世帯
町内会の災害活動に対する助成	1,200	
歳末たすけあい募金等に対する負担	6,600	歳末たすけあい募金、日赤社資、社協会費のそれぞれ7・8年分
災害復興基金に積立て	22,126	各種災害に対する復興資金として基金に積立て
計	78,875	

[礼状]

感謝

早春の頃、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、町政の進展について格別のご支援とご協力を賜り厚く感謝に堪えません。

平成七年一月十七日早朝、突如として当地を襲った兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）は未曾有の大惨事となり、地震の恐怖を深く痛感するところであります。

さて、この度は淡路町災害対策本部に対し、心暖まる義援金並びに救済物資をお届け頂き誠に有難うございます。必ずや被災者の気持ちを明るくし大きな力づけとなったものと存じます。

心から厚く感謝を申し上げます。

つきましては、今後震災の一日も早い復興に全力を傾注し取り組んでまいりたいと考えておりますので、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

何分にも混雑中のことでもありますが、失礼とは存じますが書面をもって感謝を申し上げますとともに、未筆ながら、皆様のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。

平成七年 月 日

淡路町災害対策本部長
淡路町長 竹代 秀雄

様

《素案》

兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)

淡路町震災復興計画

～阪神・淡路大震災を乗り越えて～

淡 路 町

淡路町復興計画

基本構想

基本理念

－ 憩えるまちづくり －

基本目標

1. 自然との共生と憩える環境の創出
2. 広い視野に立った誰もが住み続けたいと願うまちづくり
3. 災害に強く、安心して暮らせるまちづくり
4. 官民協働でのまちの復興

策定の趣旨

平成7年1月17日の午前5時46分に淡路町の住民が、かつて一度も経験していない、想像を絶する“自然の猛威”それが、今回の淡路島北部を震源地とした兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)である。

この震災は、まちに甚大な被害をもたらし、約1,000世帯(3,000人程度)の家屋が全半壊し、公共施設にも多大な損傷を被った。

こうした状況にあって震源地の間近であったにもかかわらず、幸いにも火災がなかったことは救われた思いである。

この大震災で、淡路町のまちの持つ問題点・課題を我々は改めて認識せざるを得ない。

この復興計画の策定にあたっては、まず町職員で構成される「淡路町震災復興計画検討委員会」によって原案が練られ、それを町有識者等で構成された「淡路町震災復興計画策定委員会」で検討・協議し、「淡路町震災復興計画」が提言された。

これを受けて、策定された計画を基に住民の一日も早い生活の安定と速やかな復旧・復興をめざし、計画に位置づけた具体的な事業は官民協働で推進することとする。

基本方針

震災により、このまちが失ったもの、必要だったものを的確に把握して、住民が安心して暮らせるまちづくりの実現のため、総合計画(第4次)に基づいて、復興のための基本理念を明確にする「基本構想」を立案する。

計画推進上の課題

今回の未曾有の大震災からの復興は、被災者のみならず地方公共団体等にとって前例のない困難を伴い、復興事業の推進にあたって10ヵ年の長期に及ぶものであるため、社会情勢や住民ニーズ等の変化に対応しつつ、その目標の達成をめざす。

1. まちが持つ良い個性を失うことなく、国際的視野に立った、人と自然が共生する憩えるまちづくり

古来、淡路島の北の玄関口として景観にも優れた要衝として栄え、平成10年に完成する明石海峡大橋により、関西・四国圏発展の広域重要ポイントとして新たな地域の発展に役立つ復興であること、さらには、自然環境の保全や住環境をより高める視点からの対応を図る。

2. 住民と共に歩む安心して暮らせるまちづくり

わが町は、海で魚を獲り、平地で水稻、山では果樹を作って生計を営み、多大なる自然の恩恵を受けてきたと同時に、それ以上の風水害等も被ってきました。

まちの復興と災害に強いまちづくりを推進するため、住民と行政が智恵を出し合い、助け合いながら社会インフラ、福祉、教育、文化、産業等の復興を官民協働でこれからのまちづくりを行う。

目標年次

2004年(平成16年)

対象地域

淡路町全域

復興事業計画

～ 憩えるまちづくりのために ～

① 3年以内に概成する事業

- ◆水際線と都市デザイン(絵島周辺美化事業)
- ◆道路システムの再編(生活道路改良工事)
- ◆衛生施設の充実(火葬場改修工事)
- ◆防災マネージメントの充実(地域防災計画の見直し)
- ◆災害復興住宅の供給(災害公営住宅建設事業)
- ◆防災意識の高揚(消火設備設置事業)
- ◆商工業の振興(中小企業災害復旧資金利子補給)
- ◆廃棄物処理施設の整備(北淡路生活環境施設整備事業)

② 3年以内に着手する事業

- ◆市街地環境の整備(岩屋港ポケットパーク整備事業)
- ◆歩行者空間ネットワーク(小径整備事業)
- ◆郊外地域の計画的発展(砂連尾宅地造成事業)
- ◆保健・医療・福祉の拠点づくり(保健ふれあいセンター建設事業)
- ◆防災資機材の充実(コミュニティー事業)
- ◆防災施設の整備(防災備蓄施設設置事業)
- ◆地域防災基盤の整備(防災行政情報システム事業)
- ◆災害復興住宅の供給(共同コミュニティー住宅建設事業)
- ◆上水道施設の整備(上水道施設耐震化事業)
- ◆下水道施設の整備(広域下水道施設整備事業)
- ◆ボランティア活動の推進(ボランティアセンター設置事業)

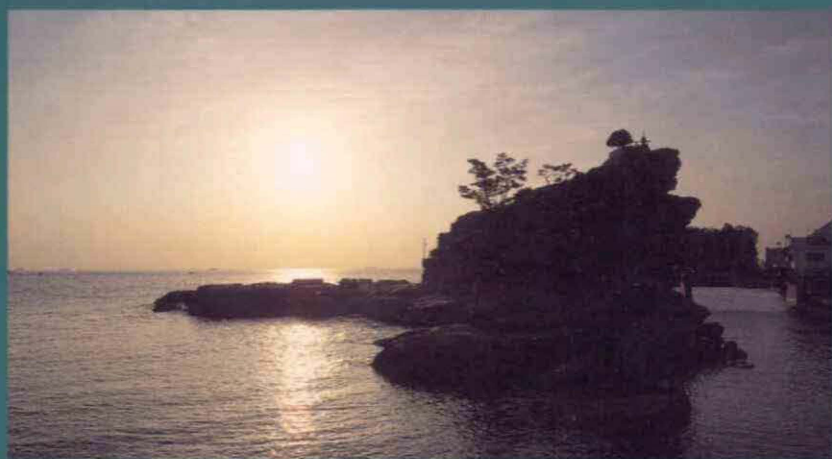
③ 10年以内に概成する事業

- ◆都市と農山漁村の交流(農業憩の家改築工事)
- ◆町内集会所の充実(コミュニティー会館建設事業)
- ◆防災施設の充実(防火水槽設置事業)
- ◆防災機能の強化(河川改修工事)
- ◆集客産業の振興(岩屋海岸整備事業)

平成7年1月17日
阪神・淡路大震災
メモリアル・フォト

発刊 平成8年3月
発行 淡路町
印刷 (有)中井印刷所

【絵島の夜明け】



悪夢の日から早一年
私たちのふるさと「あわじ」は
未だその傷口を癒やせない
住む家がなくなり
働くところを失った
晴いばかりの現実の影が
私たちに
大きくかぶさっている
悔しいばかりの一年
辛く苦しいだけの一年
だけど・・・
長い暗闇が続いたあとには
必ず夜明けがやってくる
強い意志と優しい心が
ありさえすれば
今まで以上に素晴らしい
ふるさと「あわじ」が見えてくる
負けるな、頑張れ、弱者を吐くな
夜明けは必ずやってくる

平成7年1月17日

阪神・淡路大震災記録写真集

発刊／平成8年3月
発行／淡路町